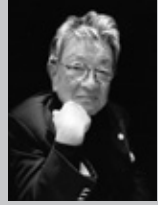


巻頭  
言

## やはり日本は素晴らしい

| 会長 山崎 學



前から信じていたように岸田文雄総理は素晴らしい。財務省とタッグを組んで新たな増税案を繰り出し、国民の貧困化を見て見ぬふり。内閣支持率、自民党支持率の低下で次期総理のイスが危うくなると派閥推薦で総理になれた恩も忘れて、東京地検が不起訴にした裏金問題をマスコミと組んで政局に仕立て上げて<sup>しよくしよく</sup>と次期総理再選をもくろんでいる。手始めに清和会の解体に手を付けて、己が会長を辞して何の権限もない宏池会の解散を宣言し、清和会の「五人組」という訳の分からない仮想敵を仕立て上げて清和会を解散に追い込んだやり方は、かつて文化大革命で毛沢東の亡き後「毛沢東夫人の江青女史以下四人組」を極悪人に仕立てて世論をあおった手法に似る。あとはマスコミにあおられた世論が派閥悪玉論に乗せられて、麻生派を除く派閥が解散に踏み切らされた。ここで言葉尻を取られないように書いておくが派閥のすべてを容認しているわけではない。従来は組閣する時に各派閥が閣僚候補を推薦する仕組みで行われてきたが、安定性を考えて派閥の長老が重ねて閣僚に就任することが多く、派閥の若い世代の不満が鬱積していたのは事実である。しかし派閥を解体させてしまった今、閣僚・副大臣・政務官人事はどのような基準に基づいて行うのか皆目見当がつかない。結果として総理にすり寄る議員から選ぶようになると、まさに総理大臣の権力が巨大化して独裁政権誕生になる危険性を懸念している。今行われている補欠選挙の結果次第で岸田総理の再選シナリオは不透明であるが、能力豊かな総理のことだから危うくなれば死に物狂いで次の一手を考えてくれるだろう。

報道の中立と正義をうたう我が国のマスコミ報道も素晴らしい。国境なき記者団（RSF）が2002年から公表している世界報道自由度ランキング（Press Freedom Index）によると我が国の順位はG7では圧倒的に低く180カ国の中で68位である。1位ノルウェー、2位アイルランド、3位デンマーク、4位スウェーデン、5位フィンランドと世界の幸福度ランキングと同じような国が顔を出す。ちなみに180位北朝鮮、179位中国、178位ベトナムは納得。我が国の問題点として大企業・政府からの圧力による自己検閲、自民党政権に対するジャーナリストの不信感、フリーランス記者・外国人ジャーナリストを排除している記者クラブの閉鎖性、ジャーナリズムへの慣習や経済的利益、コンプライアンス・ジャーナリズム（危険地域・紛争地域の取材のフリージャーナリスト依存）などが指摘されているが、改善する気配なく当分は素晴らしい評価が続くそうである。自民党の長老支配は、渾身の取材で記事を書いても反骨を勘違いしている編集長に記事を没にされる若手記者の悲哀に似る。若手ジャーナリストの反乱で報道分野での大改革を

期待するが、岸田文雄総理のように目的のためなら手段を選ばない知恵が働く人材が出てくるのか分からない。ロシアによるウクライナ侵攻から始まって、ハマスによるイスラエル攻撃、イエメン反政府勢力フーシ派による紅海での民間貨物船・タンカー襲撃事件、モスクワのコンサートテロ、シリアのイラン大使館攻撃、報復としてイランによるイスラエルへの大規模攻撃、報復の報復としてイスラエルによる報復攻撃と国際環境が大きく変化している中で国防問題を議論することなく、国会は裏金問題追及一色といった体たらく。やはり日本は素晴らしい。